

Labo News vol.7

～ 検査・輸血細胞治療部からのお知らせ～

Labo Newsは富山大学附属病院 検査・輸血細胞治療部ホームページから閲覧できます。

<http://www.hosp.u-toyama.ac.jp/ccla/index.html>

サイボウズ掲示板「検査部から」よりカラーで閲覧・印刷できます。



検査・輸血細胞治療部 部長 仁井見 英樹 新年のご挨拶



あけましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的大流行により、全人類にとって、そして我々医療従事者にとって非常に厳しい1年となりました。このような状況下、検査・輸血細胞治療部ではSARS-CoV-2の円滑な検査の実施に努めてきました。現在、富山県への第三波の襲来に備え、遺伝子・先進医療支援検査部門のスタッフの尽力により、質・量ともに万全のSARS-CoV-2検査体制を構築しています。また、COVID-19によってその他の検査に影響が出ないよう、各部門のスタッフが細心の注意を払い、日々の検査に努めています。2021年は何よりもまず、患者様がより良い治療を受けられますように、臨床検査および輸血業務を通じて臨床へのサービスの更なる向上に努めたいと考えています。その実践のため、当部門の2021年の進むべき方向性について、以下に簡潔に記したいと思います。

第一に「迅速かつ正確」な検査・輸血業務を実施します。そのため、今年は特に「検査のスピードアップ」化を図ります。昨年末に検査機器を新規更新したことで迅速化が期待できることに加え、検体受け取りから報告までの詳細な時間の分析と工程の改善を行う計画です。各工程での無駄や非効率性を省き、シンプルで効率的かつ柔軟な検査体制を構築することで、質を落とさずに迅速化を図りたいと思います。

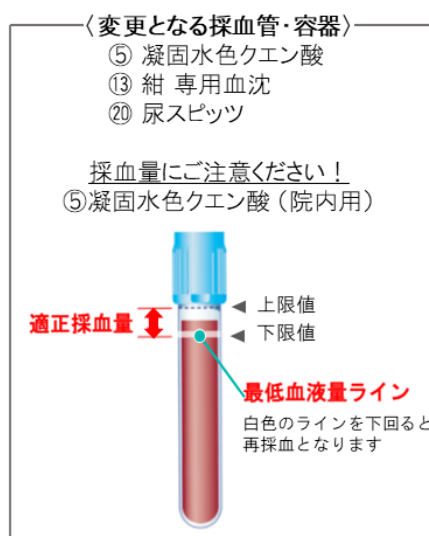
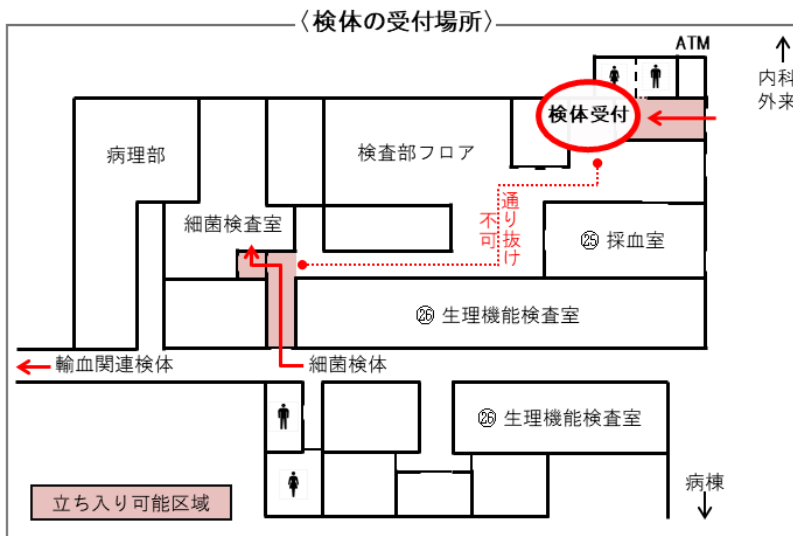
次に生理検査部門、特にエコーの検査体制を充実したいと思います。エコー検査への臨床各科からの要望は益々増えており、早急の対応が求められています。本件に関しては病院としても十分に理解されており、機器の購入や人員の配置に協力頂いていますので、早速、エコー検査の充実に取り組みたいと思います。

当部門は現在、「検査マネジメントシステムと検査技術の向上」を品質目標として、ISO15189:2012「臨床検査室-品質と能力に関する要求事項」の認定を受けています。2021年は早々に本規格の拡大審査があり、今回新たに生理検査部門の認定も受ける予定です。検査・輸血細胞治療部では本規格の品質マネジメントシステムを実践することで、「先進医療を実施する組織」としての大学病院の基盤を築いています。

以上、我々は日々是進歩をモットーに自発的に「改善・成長する組織」として活動していきますので、今年も検査・輸血細胞治療部をどうかよろしくお願ひ致します。

検体受付場所と採血容器が変わりました

検査機器・システム更新に伴い、2020年12月25日より、検体の受付場所と採血容器が変更となりました。詳細をサイボウズ・電子カルテトップページに掲載していますので、ご確認ください。



血液培養装置変更による変更点

2020年12月25日より血液培養装置を変更しました。

新規機種は、ボトルの採血量を液面感知により自動で測定する機能を有しています。

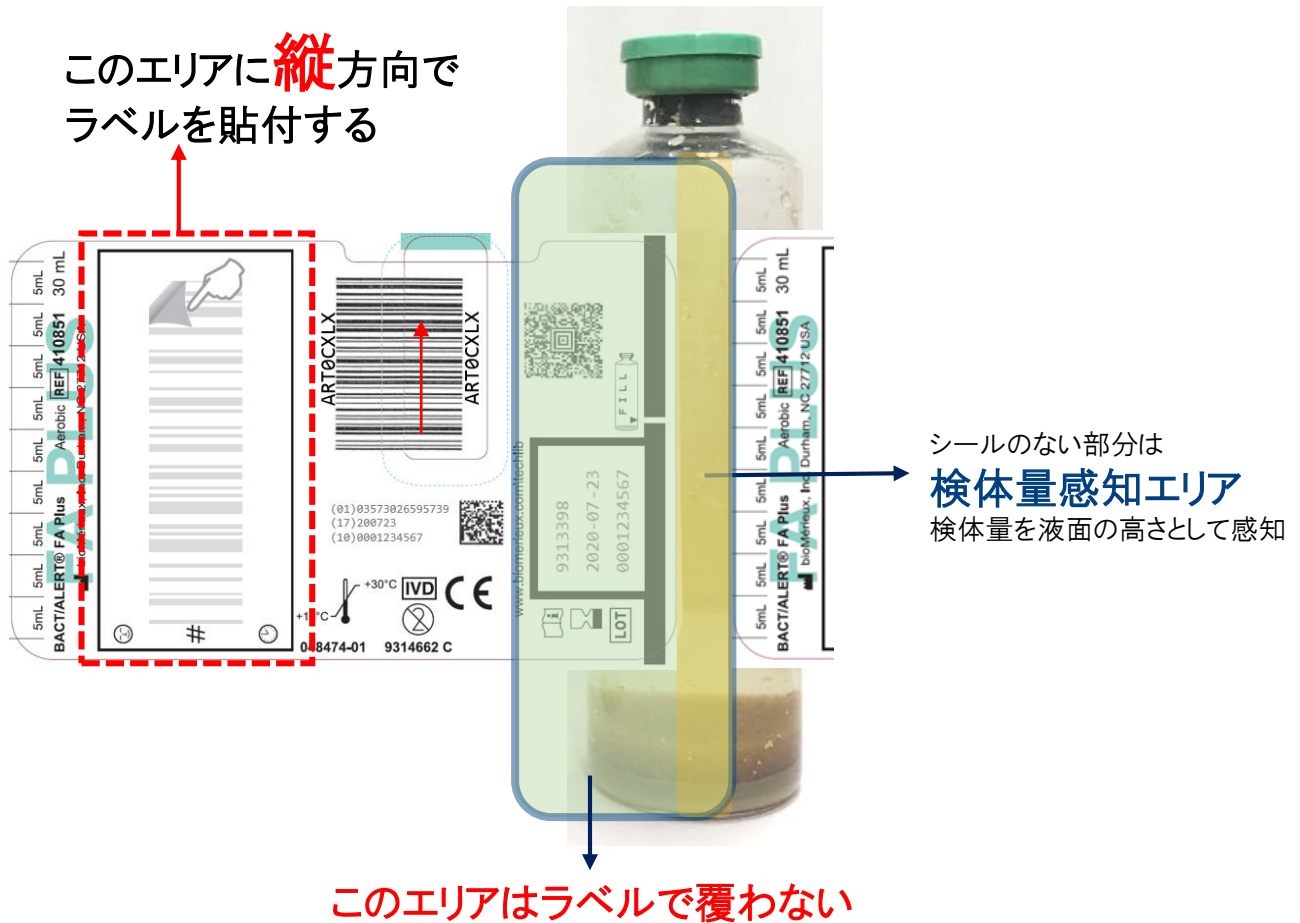
また、受付時にQRコードを読み取ることで、ボトルの使用期限やロット管理が可能となりました。

—注意—

液面が見える面やQRコードの位置にラベルを貼り付けた場合は血液量を読み取ることができません。

また、ボトルバーコードを隠した状態では機器の受付ができず、検査をすることができない場合があります。

指定位置へのオーダラベルの貼付を徹底して下さい。



採血量の過不足は、培養感度の低下につながります。
何卒よろしくお願い致します。

遺伝子・先進医療支援部門紹介

現在、遺伝子・先進医療支援部門は検査技師2名で構成しています。主な検査として、病原体遺伝子検査(肝炎ウイルス核酸検査)や生殖細胞遺伝子検査(先天性凝固異常症等)を行っています。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策としてSARS-CoV-2核酸検査を院内で対応できるよう尽力して参りました。検体採取を行って頂いている医師及び看護師の皆様のお力添えにより、検査開始5月から11月末までで2514件の検査を行うことができました。引き続き感染拡大防止対策に検査・輸血細胞治療部一同で対応して参りますので、ご協力よろしくお願いいたします。



新型コロナウイルス核酸検査に関するお問い合わせ:080-4208-6046(平日時間内のみ)